

Future World 第08号

三者面談では、進路の話を中心にお話させていただきます。

現在、梅雨前線が愛知県の真上に停滞し、雨また雨の毎日で、心から真夏の青空が望まれます。さて、先日は、保護者の方も含めた三者面談を行いました。これまでの懇談とは違い、進路に関する内容が多くを占めるようになります。ここでの三者面談は、夏休みをいかに過ごし、2学期からどのように学習を進めていくか方向性が見えてくるのではないのでしょうか。3年生にとってこれからが天王山となっていきますよ。

発表 各高校の校内順位の決定方式

令和4年度愛知県公立高等学校入学者選抜（全日制課程）一般選抜における校内順位の決定方式について説明します。

愛知県の公立高校は、入試の校内順位（受検者の順位）を決める際、当日点（22点×5教科＝110点満点）と内申点（5点×9教科＝45点満点）をほぼ同等に近づけるために、内申点を2倍して90点満点とし、「当日点＋内申点×2」で校内順位を決定します。当日点というのは、学力検査（筆記試験）の得点のことです。その際、後述する一部の受検生については、その順位を決定するための計算方法を学校ごとに選択できることになっているのです。具体的には以下の3つの種類があります。

I 均等型（「内申点×2＋当日点」）

学校裁量 I（均等型）	
◆内申点 (調査書)	(5段階評価×9教科×2) = 90点
◆学力検査 (筆記試験)	22点×5教科 = 110点

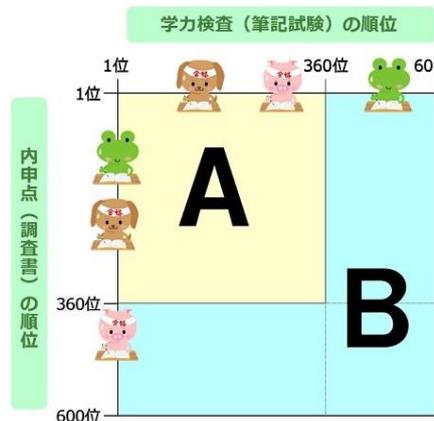
II 内申重視型（「内申点×2×1.5＋当日点」つまり、内申点を3倍する。）

学校裁量 II（内申重視型）	
◆内申点 (調査書)	(5段階評価×9教科×2) ×1.5 = 135点
◆学力検査 (筆記試験)	22点×5教科 = 110点

III 実力重視型（「内申点×2＋当日点×1.5」）

学校裁量 III（実力重視型）	
◆内申点 (調査書)	(5段階評価×9教科×2) = 90点
◆学力検査 (筆記試験)	(22点×5教科) ×1.5 = 165点

「校内順位」というのは、同校を受検した生徒の入試における順位のことです。合格を決める順位付けになります。



例として、定員400名のカレッジ高校に、受検者が600名いたとします。

推薦合格者が40名いた場合、残り360名の枠を一般受検者が競うこととなります。

内申点と学力検査の順位が、ともに合格者枠内の者を「A」とし、その他の者を「B」とします。現実的には、内申点の上位360人と当日点の上位360人が完全に一致することなど起こりません。つまり、「A」だけでは合格枠「360」が埋まらないのです。まだ、「360-A」の残り枠があります。そこで、「B」の受検生たち（3～4割くらいかではとされています）だけで「第二回戦」が行われます。「B」に入った受検生たちが、各高校があらかじめ選択した「学校裁量」によって再計算され、校内順位が決定していくこととなります。

各学校の校内順位の決定方式は、次号参照となります。